

# ESA に関する FAQ : ESA のリソース保護モードとは何ですか。

## 内容

### [概要](#)

[ESA のリソース保護モードとは何ですか。](#)

### [GUI](#)

### [CLI](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco E メール セキュリティ アプライアンスでの Resource Conservation モードについて説明します。

## ESA のリソース保護モードとは何ですか。

リソース節約モードは、内部システムリソースが不足したときにESAが入力する自己保護モードです。たとえば、RAM使用率が容量の75 %を超えると、AsyncOSはリソース節約モードになります。 キュー領域を含む複数のリソースが不足すると、システムがリソース節約モードになる可能性があります。

基本的に、ESAに着信するメッセージのレートが、アプライアンスから発信されるメッセージのレートよりも高い場合は、リソース節約モードに入ります。これらのレートの違いは一般的ですが、着信レートが長期間または大幅な差異によって配信レートを超えた場合、アプライアンスには追加メッセージを保存するためのリソースがありません。

リソース節約モードの目的は、配信レートが受け入れレートを超え、システムからメッセージを排出できるように、ESAに着信するトラフィックを減速することです。

リソース節約モードはオン/オフスイッチではありません。AsyncOSがリソース節約モードに入ると、メッセージを受け入れる速度が徐々に遅くなり、着信および発信のメッセージレートのバランスが取れます。リソースが完全に枯渇している極端な場合、AsyncOSは新しいメッセージの受け入れを拒否します。

AsyncOSがリソース節約モードになると、アラートメッセージが送信されます。alertconfigを使用してアラートを設定すると、このアラートのコピーが表示されます。

**注：**このアラートは通常のAsyncOSメールシステムを経由しないため、他のメッセージ配信が停止した場合でも配信できます。AsyncOSがResource Conservationモードを終了すると、別のアラートが表示されます。

GUIとCLIの両方で[Resource Conservation]モードを確認できます。

## GUI

ESAのGUIで、[Monitor] > [System Status]に移動し、リソース節約モードのステータスを表示します。

## CLI

ESA CLIに**status detail**コマンドを入力して、アプライアンスがリソース節約モードに入ったかどうかを確認します。

GUIとCLIの両方に表示される[Resource Conservation]の値は、0 ~ 60、つまり999の間の値です。0 ~ 60の数値は、重要なシステムリソースの急激な枯渇を防ぐために、システムがメッセージの受け入量を減少するする度合程度を示示示です。数値が大きいほど、受け入れが低下します。ゼロは受け入れ率の減少を示さず、完全な受け入れ率で動作するシステムです。[Resource Conservation]の値が999の場合、システムは挿入されたメッセージを受け入れません。